

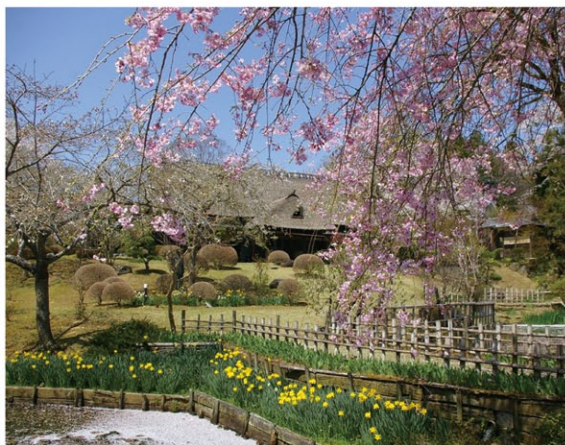
わたしと笠間 3

しゅんぷうばんりそう
春風萬里莊を笠間に移築

芸術村構想が始まった頃に、北鎌倉にある書家で陶芸家の北大路魯山人の旧宅が売りに出される話が入った。長谷川仁は芸術村のクラブハウスに良いとその藁葺き屋根の民家を購入、笠間に移築することにした。この三百平米の大きな民家は江戸時代中期の厚木市近郊の豪族の建物で、昭和の初めに魯山人が北鎌倉・山崎に星岡窯を始める際に自らの住居として移築したものである。笠間への移築で、この民家は二度の引っ越しをしたことになる。釘を使わない古い手法ゆえに可能なことであつた。

この建物は魯山人が好んで用いた李伯の詩にある言葉から「春風萬里莊」と名付けられた。庭の桜や紅葉も美しく、今では四季折々に多くの方々が訪れている。また、その後、北鎌倉にまだ残っていた慶雲閣と呼ばれた民家もすべて焼失したので、春風萬里莊は魯山人ゆかりの唯一つ残存する貴重な建物となった。

昭和四十一年六月に、移築したこの民家で芸術村発足を祝う会が行われた。笠間はもともと陶芸で有名であることから、魯山人の旧宅は場所を得たと言える。



春風萬里莊 お花見の頃

笠間日動美術館 副館長 長谷川智恵子

日本陶芸展
「碧彩鉢」

井上英基さん大賞を受賞

第23回日本陶芸展で、陶芸家の井上英基さんが大賞・桂宮賜杯を受賞しました。

釉薬で表現する鮮やかな情景

今回大賞を受賞した碧彩鉢は、底から口辺にかけてのラインを大きく広げ、美しく広大な海をイメージして製作にあたりました。

碧彩釉という独自の釉薬を使って、日常で見る美しい景色を表現する井上さん。観る人それぞれに、心に残る景色を思い浮かべるきっかけにしてほしいという想いが込められています。

成長に貪欲な姿勢

大賞に輝いてなお、自分の作品はまだまだ、と井上さんは言います。「自分の作品に満足してしまったら、そのときは作家でいられないと思う。去年の作品を見て“恥ずかしい”と感じられないということは、自分が成長できていないということ。そうなってしまったら、ものづくりをしている意味がない。」そう話す様子からは、普段の優しげな印象とは違った、作家としての誇りや自信、向上心にあふれた一面が伺えました。

受賞結果を受け、「これまで以上に厳しく、作品づくりに取り組まなければならなくなった。」と井上さんは力強く話していました。



碧彩鉢 へきさいばち
高34cm×幅49cm×奥45cm



いのうえ ひでき
井上 英基さん (押辺)

県窯業指導所で陶芸の基礎を学んだ後、ドイツに留学。主に釉薬の研究に取り組む。

日本陶芸展とは

会派や団体にとらわれない実力日本一の陶芸作家を選定することを目的に設立された展覧会。歴代の大賞受賞者には、松井康成など重要無形文化財保持者(人間国宝)として活躍した作家も名を連ねています。